

会議録

会議の名称	社会教育委員の会議（3月定例会）会議録
開催日時	令和3年3月26日（金）午後2時から午後4時30分まで
開催場所	田無第二庁舎3階 会議室
出席者	委員：高橋議長、長谷川副議長、岩崎委員、川原委員、北村委員、河野委員、小松委員、菅野委員、攝賀委員、星出委員、矢野委員 事務局：和田社会教育課長、江藤課長補佐兼社会教育係長、青木主事
議題	<u>議 事</u> （1）地域学校協働活動の推進に向けた学校施設のあり方(活用)について （2）その他
配付資料	資料1 社会教育委員の会議(12月定例会)会議録(案)
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

会議内容

●令和2年12月の定例会議の会議録について、承認する。

**議事（1）地域学校協働活動の推進に向けた学校施設のあり方(活用)について**

- 議長：「地域学校協働活動の推進に向けた学校施設のあり方(活用)について」の研究レポートについて、まずは事務局より説明をお願いしたい。
- 事務局：緊急事態宣言発出に伴い、やむを得ず1月、2月の定例会は中止とさせていただいた。その間に、「地域学校協働活動の推進に向けた学校施設のあり方(活用)について」をテーマに、研究レポートを各委員に作成いただいた。3月・4月の定例会議において、発表をお願いしたい。
- 議長：では、各委員より「地域学校協働活動の推進に向けた学校施設のあり方(活用)について」の研究レポート発表を簡潔をお願いしたい。
- 委員：◆地域学校協働活動の具体的な推進のための仕組みづくりとポイントについて、研究レポートをまとめた。  
◆幅広い地域住民の参画を得るためには、公民館の生涯学習サークルの方々や若者サミット等にも協力をお願いしてみてもどうか。  
◆彦根市の支援者バンク等も参考にしてみてもどうか。  
◆コロナ禍では「想定外」を生き抜く力が必要となっており、4つの力（①人を大切にする力 ②自分の考えを持つ力 ③自分を表現する力 ④チャレンジする力）が求められる。これらの力を、地域学校協働活動において、子どもたちが身につけられるような取り組みも切望する。
- 委員：◆学校施設について、現状の有効活用と多機能・複合化の深化の面から研究レポートをまとめた。  
◆児童・生徒数減少による余裕教室の有効活用としては、放課後子供教室や地域との連携をすすめる会議室、保護者相談室等にフレキシブルな活用方法をしていってはどうか。  
◆社会教育活動の連携は、近隣の大学、ひばりが丘パークヒルズの南集会所、自由学園等の施設と、そこに存在する人財との両面セットで進めていくとよい。

- 委員：◆地域学校協働活動の推進のためには、地域の拠点となる学校施設が「開かれた学校」として、いかに地域住民へ開放し活用されるかという点に着目し、研究レポートをまとめた。
- ◆地域住民が利用しやすい学校施設として、校庭・体育館以外の余裕教室や家庭科室等が、学校の支障のない範囲で活用できる仕組みづくりをしていくとよい。
  - ◆余裕教室のほとんどが少人数教室やランチルーム等に転用されている。学校によっては開放状況にも大きな違いがあるのが現状である。
  - ◆地域住民への開放の仕組みづくりとしては、次のようなことがあげられる。
    - ① 警備員の時間的配置
    - ② 校庭、体育館以外の特別教室の開放
    - ③ 受益者負担の導入等

- 委員：◆学校現場から捉えた地域学校協働活動推進に向けての課題と方法について、研究レポートをまとめた。
- ◆中学校での地域との連携事例は、総合的な学習の時間、学校行事、職場体験、部活動指導、補習学習等である。
  - ◆生徒が地域と協働できる活動としては、ボランティア活動(地域イベント、お祭り)、高齢者施設訪問、放課後カフェ等である。
  - ◆地域と学校が協働していくためには、最初に施設ありきではなく、「共通理解」、「枠組みづくり」、「人材の確保」がカギである。
  - ◆協働して地域を形成するという「人材確保」と、ボランティアに頼るということではなく「財政確保」が欠かせない課題と考える。

- 委員：◆地域の定義や地域の核となる学校の機能について、学術的な議論、先導的事例の紹介の視点で研究レポートをまとめた。
- ◆地域の範囲の捉え方には様々な観点があるが、当市の地域学校協働活動の単位としては、「小学校地区」が合理的だ。
  - ◆先進的事例を見れば、地域のおとなが「楽しさ」から学校に関わるようになった契機が認められ、地域住民が参画する多様な仕組みづくりが重要であることがわかる。
  - ◆地域学校協働活動は、子どもの教育のためだけでなく、地域のおとなの生涯学習にとっても意義がある。
  - ◆住民主体の運営を軌道にのせるためには、行政の働きかけが必要である。
  - ◆当市において学校を核として地域社会を形成するためには、今後の社会状況を想定し、行政・住民・地域社会でひっ迫感をもち、その重要性を共有する必要がある。
  - ◆先進的事例の知見を参考に、当市の文脈に沿ってモデル校を成功させるように導き、その知見を他の学校に普及させることが望ましい。

○議長：委員の皆さん、研究レポート作成と発表を、大変お疲れさまでした。来月もどうぞ宜しくお願いいたします。

## 議事（２）その他

### 【１】次回定例会について

- ◆内容 地域学校協働活動の推進に向けた学校施設のあり方(活用)について

※次回会議

4月23日（金）午後2時  
田無第二庁舎4階会議室